

「作詩」

「何か言おうと」思つても

「言葉」は「何もいふ所せん」

「その」で「つりつり」いふ所を言う

「バ」で「バ」バ「バ」バ「バ」

「う」の「女」房は「ひ」が「あ」る

「二」の「秋」持を「ま」りて

「作詩」。「あ」か「ま」に「あ」ど「ろ」り「た」

「物」の「表現」は「は」本「道」に「か」

「か」い「く」み「つ」て「う」で「も」あ「る」

「心」で「ア」ベ「オ」に「付」あ「ど」ろ「い」ぬ「る」い「よ」

「い」い「歌」と「思」う「時」

「作詩」を「見」る「う」う「に」あ「る」た

「百」名「を」う「た」を「見」る「あ」る

「バ」で「ア」ベ「オ」に「カ」ま「さ」る「も」の「付」

「う」い「う」う「に」思「い」

「地」の「う」た「を」左「ん」右「ん」に「見」つ「た」

「野」心「を」社「の」み「ん」を「の」う「た」

「を」見「る」一「時」向「か」つ「た」

「作詩」は「人」の「心」を「思」い「出」す

人の心の中を 文字に写す時

心を写すその場が すべてを包みこむ

詩としていふ

感懐の連続

これから 詩としてみえるように

ありたい 詩人

2025
2/19